

2018年11月吉日

「第3回 都市・建築学専攻・杜春会交流会」開催のお礼と報告

日頃、都市・建築学専攻ならびに杜春会の運営、また、現役学生に対する厚いご支援をいただきありがとうございます。

本専攻と杜春会では、先にご連絡しておりました通り「都市・建築学専攻・杜春会交流会」を東北大学工学部 人間・環境系教育研究新棟におきまして2018年11月10日（土）に開催いたしました。今回の交流会には121名（うち学生65名）のご出席をいただき、大変盛況のうちに終えられたものと喜んでおります。ご多忙の中、お集まりいただきました卒業生の先輩諸氏には心より御礼申し上げます。また、数多くのOBOG有志の皆様、企業から差し入れ・協賛金などのさまざまなご支援を頂戴いたしました。重ねまして厚く御礼申し上げます。

第一部については土木大講義室において、まず竹中工務店の平川恭章氏により「想定外を想定すること ～あべのハルカスの設計を通して～」と題するご講演をいただきました。超高層ビルには、建築のあらゆる分野の最先端の技術が結集されていることを、あべのハルカスのみならず海外の事例も交えながら、わかりやすく説明してくださいました。次に大成建設の出口亮氏（52回生）により「あるべき姿を見出し、かたちにする」と題するご講演が行われました。東北大学で学んだことが現在の仕事にも役立っているという話から始まり、代表作であるTSURUMI こどもホスピスを中心について熱く語っていただきました。いずれのご講演も、参加学生にとっては、自身のキャリアを考える上で大きな励みになったにちがいありません。

第二部についてはトンチクギャラリーで、芋煮交流会が行われ、乾杯のご挨拶は関空間設計の木皿泉氏（29回生）が務められました。学生には、特定の職種に留まらない数多くのOBOGの方々との交流の機会となるように、職種ごとに作った島を学生が移動するワークショップ形式としました。専攻と杜春会との直接的な交流な場となり、双方にとってより緊密なネットワークを築き、一体感を高めるきっかけの一つになったものと考えております。次年度以降も継続的なイベントとして専攻・杜春会がともに育てあげてゆきたいと考えております。皆様におかれましては、継続的なご支援のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

飛ヶ谷潤一郎（44回生）



平川恭章氏のご講演



出口亮氏のご講演



懇親会の様子、乾杯の挨拶は木皿泉氏（29 回生）